

伝統的な祭りにおける新たな担い手策に対する担い手の意識

—青森県八戸市のえんぶりを事例として—

Bearer Awareness of Novel Bearer Strategies in Traditional Festivals: a case of Enburi in Hachinohe City, Aomori Prefecture

○栗原良樹* 新田太陽** 林雅秀*

○Yoshiki KUWABARA* Taiyou SHINDEN** Masahide HAYASHI*

1. はじめに

過疎・少子高齢化が進む現代社会において、祭りや伝統文化の担い手減少により継続実施が困難となる地域が都市部においても確認されている¹⁾。担い手対策として地域外部者の新たな参画が期待されているが、受入側の意識も多様であり、必ずしも円滑に進んでいるわけではない。先行研究²⁾では大学生の参加に対する地域の意識を分析しているが、複数の担い手の可能性を比較した研究はない。そこで、本研究では祭りを実施する組織における担い手の状況と複数の新たな担い手策に対する担い手意識を解明することを目的とする。

2. 研究方法

調査対象は青森県八戸市の重要無形民俗文化財である「えんぶり」を行っているえんぶり組とした。まず、全33団体(2022年時点)のうち調査協力の得られた3団体の代表者を対象にえんぶり組における担い手の状況についてヒアリング調査を行った。ついで、3団体の構成員計98名を対象にオンラインアンケート調査を行い、50名から回答を得た(回収率51%)。アンケート調査項目は基本属性(性別、年齢、えんぶり歴、出身地)、参加状況、始めたきっかけ、続けている理由、幼少期のえんぶり参加経験、えんぶり組内の雰囲気、三社大祭(八戸市内での大規模な祭礼)への参加状況、新たな担い手策に対する意識などである。新たな担い手策として、1. 集落出身者への参加の呼びかけ、2. 地縁者・血縁者への参加の呼びかけ、3. 県内の大学生への参加の呼び

かけ、4. 地域とゆかりのない人への参加の呼びかけ、5. 他地域との合併の5項目を挙げ、5段階評価で回答を得た。分析ではアンケート項目の単純集計を行ったうえで、数量化I類により新たな担い手策に対する参加者意識の規定要因を分析した。

3. 結果

1) えんぶり組における担い手の状況

各えんぶり組における担い手の状況を表1に示した。えんぶりの時期に帰省する大学生やUターン者の参加はみられ、子供えんぶりをやっているA組ではどちらの参加もみられた。Iターン者の参加はいずれの組でもみられなかった。地域外からの参加は、B・C組は積極的に受け入れたいと回答しており、C組では実際に参加も多かった。一方で、A組では他地域の人が担い手になることに対する葛藤により受け入れに消極的であった。他地域との合併に対しては、いずれの組もえんぶりの内容が異なることを理由に否定的であり、C組では合併せざるを得ない状況であれば解散すると回答した。

図1 各えんぶり組における担い手の状況
Situation of the investigated Enburi groups

| えんぶり組 | A組 | B組 | C組 |
|----------------|--------------------------------|------------------------|--------------------------|
| 参加人数 | 約60人 | 約30人 | 約50人 |
| 子供えんぶりの有無 | あり | なし | なし |
| 地区内での三社大祭の組の有無 | なし | なし | あり |
| 地区出身の大学生 | あり | あり | なし |
| Uターン者 | あり | なし | あり |
| Iターン者 | なし | なし | なし |
| 地域外からの参加 | なし | なし | あり |
| 地域外からの参加に対する意向 | 難しい。他の地区の人ばかりになると、伝統になるのか悩ましい。 | 拒絶反応はないが、あまりないので困っている。 | 積極的に声掛けはしている。 |
| 他地域との合併に対する意向 | 考えていない。何もかも違うからできない。 | 考えていない。 | 考えていない。踊り方も笛・太鼓も違うので難しい。 |

*山形大学農学部 Faculty of Agriculture, Yamagata University. **青森県庁 Aomori Prefecture

キーワード: えんぶり, 新たな担い手, 担い手意識

2) 新たな担い手策に対する参加者の意識

新たな担い手策に対する 5 段階評価の平均点を表 2 に示す。項目 1~4 の参加の呼びかけは肯定的であった (4.0~4.6) が、項目 5 の他地域との合併は否定的であった (2.8)。

数量化 I 類の結果を表 3 に示す。寄与率の上位 3 位 (項目 5 のみ 3・4 位の差が小さいため 4 位まで) について記述する。項目 1 では 50 歳以上で肯定的であるのに対して、40 歳代以下では否定的であった。また、幼少期にえんぶり参加していた人および友達や家族との参加が楽しいから続けている人では肯定的であった。項目 2・3 では 30・40 歳代では否定的であったのに対して、舞手・歌い手・演者として参加していない人および伝統を守りたいから続けている人では肯定的であった。項目 4 では八戸市出身でない人では肯定的であったのに対して、えんぶり歴が 10~20 年の人および 30・40 歳代では否定的であった。項目 5 では三社大祭に参加している人、男性、えんぶり歴が 10 年以内の人では肯定的であったが、伝統を守りたいから続けている人では否定的であった。

4. まとめ

本調査ではいずれの参加の呼びかけに対しても担い手は肯定的であった (項目 1~4)。しかし、集落出身者への呼びかけ (項目 1) において若年層で否定的な傾向であったことは、呼びかける相手として若年層が想定され、実際に声をかける役割を担いがちな若年

層において困難さが表れたと考える。また、他の呼びかけ (項目 2~4) においてえんぶり組の中心を担う 30・40 歳代でのみ否定的であったことは、組の中で責任を負いながら、実際に実施することの困難さが表れたと考える。加えて、集落出身でない地縁者・血縁者および県内の大学生への呼びかけ (項目 2・3) において舞手・歌い手・演者として参加している人で肯定的でなかったことは、先行研究 2) の指摘と同様に新たな担い手の技量を舞手などが不安視したためと考える。

一方で、他地域との合併 (項目 5) には担い手は否定的であった。伝統を守りたいから続けている人では否定的な傾向であったことから、先行研究 2) の指摘と同様に、えんぶりの旧来の型を厳格に継承していくことが望まれていると考える。また、えんぶりよりもやや広域の地域単位で組が組織されている三社大祭へ参加している人で肯定的であったことから、担い手が認識している地域の枠組み・範囲が、合併への肯定的な評価につながったと考える。

参考文献 1) 大島明 (2022) : 神輿渡御祭における担い手の居住地の変遷, 人文地理, 74(4), 389-407. 2) 山下良平・岩佐拓弥 (2018) : 伝統的祭事における担い手多様化に関する住民意見の規定要因, 農村計画学会誌, 37(4), 382-391.

表 2 新たな担い手策に対する参加者の意識
Bearer awareness of novel bearer strategies

| 新たな担い手策 | 平均値 |
|------------------------|-----|
| 1. 集落出身者への参加の呼びかけ | 4.6 |
| 2. 地縁者・血縁者への参加の呼びかけ | 4.5 |
| 3. 県内の大学生への参加の呼びかけ | 4.3 |
| 4. 地域とゆかりのない人への参加の呼びかけ | 4.0 |
| 5. 他地域との合併 | 2.8 |

表 3 数量化 I 類の結果 (寄与率)
Results of quantification type I (contribution ratio)

| | 1. 集落出身者への参加の呼びかけ | 2. 地縁者・血縁者への参加の呼びかけ | 3. 県内の大学生への参加の呼びかけ | 4. 地域とゆかりのない人への参加の呼びかけ | 5. 他地域との合併 |
|---------------------------------|-------------------|---------------------|--------------------|------------------------|------------|
| 参加状況 (舞手・歌い手・演者として参加) | 8.2% | 11.2% | 12.3% | 7.3% | 0.3% |
| えんぶり歴 | 6.8% | 8.3% | 2.2% | 19.8% | 14.5% |
| えんぶりを続けている理由 (えんぶり自体が楽しいから) | 2.9% | 0.2% | 4.1% | 0.8% | 0.5% |
| えんぶりを続けている理由 (友達や家族との参加が楽しいから) | 10.2% | 9.1% | 4.6% | 5.6% | 0.9% |
| えんぶりを続けている理由 (打ち上げや飲み会などが楽しいから) | 4.3% | 1.0% | 7.7% | 5.8% | 11.0% |
| えんぶりを続けている理由 (伝統を守りたいから) | 0.3% | 13.2% | 16.1% | 11.4% | 14.6% |
| えんぶりを続けている理由 (子供がやっているから) | 0.9% | 0.2% | 8.9% | 5.0% | 4.8% |
| えんぶりを続けている理由 (人数の少なさで辞めずらいから) | 5.8% | 9.2% | 0.8% | 0.3% | 5.0% |
| 幼少期のえんぶり参加 | 18.6% | 2.5% | 6.0% | 3.7% | 1.9% |
| 個人的な悩みを相談できる雰囲気がある | 2.4% | 5.9% | 8.1% | 4.6% | 1.7% |
| 三社大祭への参加状況 (山車を引いたり鳴り物担当として参加) | 4.0% | 9.8% | 0.1% | 0.3% | 19.6% |
| 性別 | 7.1% | 2.1% | 4.2% | 1.6% | 15.1% |
| 年齢 | 28.2% | 25.6% | 17.4% | 13.9% | 5.9% |
| 八戸市出身 | 0.5% | 1.8% | 7.4% | 20.0% | 4.3% |